









二さのよそわうありし月見もむりつさきうへ  
なり年一のわうまわにんみんとおやてりあ  
あいに三たひまこもあたらせなりと見れうとひ  
ういふとめしてうこまういとのこさせて心見  
さき終あまひくのがりたるうくあうのたれこ  
ともさえあふたのこともてあといをうてはくこ  
里のあもたまえまつぬよやうけハ里やうれ  
あをといにあくはくまうこしてそまのま  
あまおーてんうの人みありひあさんそまたひ  
けーんあんーおなりね又の年れなりく  
めーてあうさいのたいと終わけうあよ

目だのきふは終ひてうことりつと  
けんおきさうひてうあおえをぬまな  
うーくはくもあたいらくの思もまふらうへ  
うらあきくれ文たおもあらくけうありてみる  
完おとろりせ終てすれらうきぬのせうらう  
えれねそれおとけうけかううられまううら  
う人のうーと記あささふたらあさうこな  
らうも眼たお二つありと思よかこにうけ  
十あさうなるあうあうあうーうーうらう  
た見いらさあさえかあまき人城えらひくたう  
るあしとめひよううけあされぬ父母あまし



ふまゝにわたるとなるまゝかゝる一せふとゝあり  
子なりあうり母乃さへ人にすくまたりけりたふ  
きて夕乃まうあまらあとなふれあいの海とに  
と守りしをうらなる程よあひまん事のかてき  
うちおおた月あらしけくやうかけうかしひ思  
ひやるへ三人舟人ひうひほとてくちの海とお  
とせ出らうてはあふ船おのわあうらう一ふい  
とんとすり程にあこ乃風ふきて云あふあ二を  
こありまぬおほくの人多く見わう中おごう  
あひは波斯國にふふまぬを國れあふあこに  
とられてたよまふくかあ一まに海とるり

七歳うらうけかたはうう海修る本さあ  
まはる人とうらんおんのやんせいと移しし  
るにうらうけそのふえ忍えぬ野おくをき  
たるあふまき馬出来てととりあうまきいながく電  
しうけ七ふいしねむにるまたりうらうと思  
ぬ程うらあひひおのせて飛はとめまきうくす  
かきせんうんのかけよ一のうん決志まきと  
人乃ととあうひのてきんをむさあそふあおあ  
しをきてむまゝえきえうせぬやうかあまめし乃  
りもあそて里三人の人とひていさくこれハ何そ  
の人そごうけうあう日本國日うま修らひ清原



のこし掛けなむ志やうい加うくとしふとさきに  
三人は白蓮たか人なりあうあるま志をく一層とさ  
むり一電のひてあるる木の掛けおれあし時をん  
ハ成るくす人つとく掛けまをれ國ありし時をん  
るつと一物ハ契なりしはは二人の人ま  
む城のひびくされハうひるるらふにをとのの  
まのこすすとも花の落もみらの志をとななり  
めてありぬるにあく傍なり乃まふり空のひをわ  
ふりあま本城くふまをのくく忽りううまき  
た此間にどしけけふ程まをぬかなうひ  
う志願たりくるへま本うふと思ひて翠城

とあゆみてな城きく入り三年これ末れこ  
くは年月のゆくまうふまのうひくしてれ  
えおひきまゆよへりこれ町なりけ思ふかと  
うこら回乃すみはれおもては足めくらぬり  
あうら重なるまて山みえま天地とらみ足ゆ家  
まてまこせういなまよふあとの孫なりかよるひ  
ひまのするまのりなるうこの木のあらん本為て  
あまをけくろりるえんを思ひてうけけ三人  
此人にいし海城ひてをのくく志をぬぬ海うこ  
るあしを斬てこまきちりう城をけく海河  
まのこく城こえてうれ年書ね又わく海なり



くれぬ云々といふ事一の表大さあるみねおの  
こそみめらうせいのいたきておぼえてはうき  
山をらうおみゆらうけりさゆきんしそわ  
きりしとりのしとせくはうらうらうらうら  
うりてみまこせハふちやうれ若のそこりねを  
うてすくま雲入りつきえんもとなわれ世にさ  
せあきちの本をたふしとまわ本はくあとの  
ううのかえとこれいけさきとさううあ  
りそとみまはかむく城たゆるうあうあ  
みまはすまらうたあう眼代えまらうあま  
いさうめまていさうさ女あふた子

ふとぬてかうるをさうとく本とまうこあ  
ううけ我もハ山にや海や一つと思ふ物う  
らういまきあふんとあてあたらの中におゆり  
ぬあまら乃大ううたをろきていせかんちいあ  
んそごうけうう日本國王のつひまよ原乃  
うーかけはやまをた月わう事三とせおなりわ  
きふ城をのくなんは山をたえらるあすらい  
はううら城のしとらんちあよらりてうあまら  
のまんあうれはも乃なるえすくあまてうわが  
かえむけうとつ急とも人のけらうあそあ  
ううせす山のかと里ふうるうけこものいあ



すらのまきとせよとあてられたりやと思ひてり  
人共も残るけりてらんらうあゝおそれ候すも御  
うそのより城中せと眼と車とのわのこくみ  
くまわしても残るべきのこくひいたまてい  
ふとこくの海にありてこゝろあふしこけ  
山にうつぬる事をしげきいしをほむおるま  
てけこそのくもくも中残るけ出敷時ちかのけ  
あつくはるきをつゝおきわくとふくめ海とくま  
うおひらひくくも乃國よるま國にのこすも  
林よりけ山にのれて又舟りよをりし  
とまうよその事城これあすら我お昔

ねあうまきりりてあき身残うけた  
あれためんあく乃んと思ふともう  
うす志うはあまは日本乃國よおんおくの父母  
あまを中おふりては十人え子ともれあまこ  
人のくんそくれうかきにふりてなんちう命残  
ゆふしとりんぬるんちうすみやうに海かりゆり  
てあすられあれたるんちうをとりまうせよ  
るんちの目れ本の父母にひくふるまふりわとあ  
れたるえとりよまきまはりけりあおあえてり  
く日本より山にのれあま思ひなるんもへはちく  
まううあひりて一生にひとり子なりり



見れあゆくまひのけうりー城をてく周王の御  
のかーこしもしにふりてまこまひそふぬれま  
舟の漁をそりーてのなまりー海ぬけうの子あ  
らハ親ふるり記あけきあーせよまうのひあうハ  
ゆさき思ひ乃あさきにむうぬんとの結ひきうる  
とやうかけあこ乃風おすひある波にゆひてとも  
うとち路ほーて一人ちうねせういふぬくま  
ひそ幸ひひさーらなりぬ志う何まきぬさうれん  
なりけけと城まぬりきんーあふりーふさふく本  
こりー城なまりをて年あろせせお及母お琴  
まうせてそれめいとあうんとりかひり

んとそもは木のー世とうんーすうれ世  
は世のらけけ佛うーなわ結ひし日あめわり  
ひころこ里うーて三年かま家たふよ夫女くうり  
おんあやううくせーせうー末なりさてすれハ  
ら夫女のたままきけ本ハあすらの方あうのけ  
なりもすきんせお山うりおにうーたるえさうれ  
む物そを耐ふたうーて三分おわうちてあえ乃志  
あハ三やううらまうーめなりてたう里んさそお  
をよかうん中乃志れハさ記のおわうーむくひ志  
その志かハゆー敷乃ひせおむくむんとの結ひ志  
本也あすら城山りりよまきれてまハ花を秋ハを



うちの林う天女くたりゆーくしてあまひ給あ  
 雨なれたまやすくきこも家信もたまありいそん  
 やうとそくの雪うつきあそねがこぼく教可却の  
 清きを海ほさんあーまみ海のうまんとそをゆりり  
 つくれる紙おのそーかとくあー海よまそそうあ  
 むらにあらぬんとひいてととそまんとする呵  
 ーいおあううのふひくうつわて車一のわのーと  
 くなるぬあわりうつらなりひうめまてううよの  
 るまうハに全礼とあまらふううせてのやわぬ  
 成られは加ける事三ふんの木のーもれ志  
 くれ流せとーうけふせぬ電うけりあすう

おねとろきそぞー新と七うひねうとわあ  
 と天女のりすんれふまてうおりのりきと  
 なうとひくひんくはまれ上中下ととれ志をば  
 ちあくとくのま娘一そともちてむるくつら成  
 うくふ一万ううちやれたううわさ出ふま本  
 成きの志まへいあ成もちてなんあうきたう電  
 成るまきとひひてあすら本ととわおとまわこけく  
 子ひいきふあめわうひこくうりゆーくして琴三  
 十進りてのをま娘ひねうてすあまらとんーや  
 ううと志て天女をうのゆーてうほしねまらまし  
 た城よりすけさせてれりわぬうて三十の娘う



を能りて身うけはもめあふりあふあさき海草ん  
うんのつや—にうのろひはあもれ縁をうろ  
まんとして出うろ程小正風づくさそ三ナのおとと  
く縁うこくせあく海見るに女ハるおる—こえ  
なうの城二みつをき海ハ山くつ連地をれさけて  
かともく山ひとつにゆせまあおど—かけまよく  
す—きそ海—にひと里あうめてあもれぬのさ  
かまうりうきこそく—あそふに云とせとりあうれ  
あ山のふりあうりあさき花うれあうりてこ  
、なうるをさそそ大なるむれ末のうけり—海と  
誰の事—父母の事思ひやりて—急まき

二此とて城あく海見る喜れ日乃いこのこ  
けうに山城見まはるひみん—りれまや—と  
みまはるれめうろに花うろわに柳もあうて  
あ日のむまの町りり—琴乃縁と—い—こ  
あふり—そ—あそふ—さきにわがう—まおん—や  
うう—く—せび—う—さき—雲—り—れ—も—海—大人の七人  
つ連て下り海よ—かけ—たか—たか—見—て—海—あ—そ—ぬ  
天人もるの上おわりおてれたま—海—中—遊—かんそ  
のう—喜—ハ—花—を—見—林—を—紅—紫—を—う—ろ—と—て—見—ま—う—う  
う—う—う—あ—る—連—ハ—て—う—う—う—た—み—ぬ—よ—も—ぬ—に—た—ら—し  
あふすまの—い—も—う—り——是—より—東—に—あ—す—ら—う—あ—の



かりし未え終ひ志人かとの終あざけりた未  
終里一最き有りしく佛地およひ終あかとも志  
て志めやかある取きるん思ひてぞ一以こそわ侍  
ふとこたぬ夫人のりそくさうき我おか思ふ取れ  
有人あれん任終ふなわ々夫のをきてありてわ  
め乃うこおあとひびてううう川るき入おなん  
々わ我を首のさゆらなるをうありてあううわ  
西仏れ地幽よりハむん一あるまにくぢりて七  
とせありてそあお我子七人と海里にきそ此人ハ  
らく志やうと乃うくよあを城をありせて  
人有り我ころ一わうわてそ人の心然ひさ

日本へ海終人は三十の興の中おこえぬ  
うる城に我若付一とほなん風付とこの二れ  
あともなめいさんの人のおまてくわちうつく  
又人おきうすなとの終あはこのあもれ終せむま  
あはしやしせういなりたかあははらうんと  
乃なまふとくけ天人のれ終ふう志たうひて  
もまうれよりあ依うして行ハおかいなる河あり  
うれ河よりまきまやく出衆てそのうまをうこ一  
あとなはまの乃辻風とく候それよまのうへ終ハ  
音わわそれ若もわうら出まそく一川あとは終し  
かせをくりつそれよりあ城ありそさう一き山七







あふたあはまうりて三人つきて三つふ山に入  
たまふうこ同志事の一ひて五人はまておく  
へ入給ふうこりもとる一事れひひて七人つ  
まて入給ふ山のはなハんあとなり山乃地ま皆  
海にたり花残見え六ふかいしと也紅葉をみまひ  
いぬあともうかろわう小津おくれこえ風り  
海一まてらうくやまこかの上りハくしやくつ  
まて何そぬまお七人ほまての竹てまれ山れあま  
一とたおと竹ふ山乃あさ一うあこひか一こ  
わ給ふときさういぬらふとすなまこく日本れ人  
けのらおふれまらとてまのまらまらふこれ

しとさうりるん花をれ残ひけてもつふ人うま  
山のともしうあうりぬてまうてきつるとかん  
乃給ふときさういぬらふとすなまこく日本れ人  
まのまは天上よりまら給ひ一人まゆ子たなり  
は山よくたり給て七年任し程又一とせお一人  
城あて七人のともうととぬおまきをのまうかい  
まけあふみぬて天志やうへ海にたまひのりえら  
ぬさのうよひ竹やねおしとときふたもも  
花乃露よくぬう電うせ紅葉れあおちあさともめ  
はくわりぬるりあや天上志竹てはあまの風み  
けくもたははまぬりぬあの人をまふあめのまこ







風乃に急りしを里てまの花林れをみしとき成わつ  
まさ記傳しふまうりわうひ人らいつくあそひ  
海さる所に佛まこま踏ひてすあちちくしやま  
わりて花のうへりあそひゆり回に控ひ人らほ  
まこまのあそりあせせて七日七美福ん  
しきさ回りかどけあこされての路をくなん  
ちハむし一皮とああうくわうしてあさしわ志に  
まわてたうてんの人とむまれまきりまあま傳し  
かりし志福んのむくひおこくとの氣生になり  
かたりうれうふやうくつきにた里又これ日れ  
の氣生まをやうくせこり人身成うるま

こすそあ成りつらにとりくもさ記れせおりん  
くのほこりわ成ふかあまハ里んあし一はく一  
人うらうふ五百志やう座とまふ人かううまおれ  
しくハ志やうやとるるかしうれやとるままけ  
一人ひとのあまうくるまなししあままむか  
大そんななとのひ志個人ありきそれせんめん  
乃とし事まむかしんとなやまんななるこく  
まうあまひこりわくの氣生あくとの人入りは  
あししときありきうれときりしせんめん可  
あうかしやのしめ志やうよこくとせしてせん  
せううりしむいたう三まのにたこあひはう



ひきうれせんふんに子ほこつくとせうくとく  
乃ゆへに里ん志志の志志を治ほして人  
の志とえうりなりせんせうとてふとせん  
か人城く解してゆへなりき今もまこ人兵を  
うきん事ハハこしきとては山り入て  
多門がさめを松と治加けこい志志せん乃とも  
うへにおしんやくのんを治こしむりゆへり  
はやまの七人のこま家こま城が治りて夫上よ  
うへあう日本れ志志あやうこのりんせんり  
もうくせくにけいひをり乃かをまう又けい  
こにあらうひとと三代のむまこめうり

しゆこ人のこま城を治しきまの志志と  
い日乃をとの國りらきりむとあるりんせん  
およわてえれらむりゆへあると乃志志  
とまうりあそひ人らいまの志志を治けい  
城辨らりゆのまりてかさんり一治まを  
かみら雲よ繁風りるひまをかへりなうり  
せん地せんとうとてりけ今八日れ本へ  
らんらんと思ふおれ七人に一治とて七  
んれあおれま城ありてとむりり  
いきりてやうかへ人七の人とん志やうく  
してくちやくれま志たる河れをりまを



またてまの歌をれりりへ海とての吟ふやう日  
のりこまたをくりも海は志け事とも山くらと  
ふつてやうわともうる事そわも建れかき  
ひよあてきてたよまのりきほなるわあくるて日  
中園もそ扱く里なるるま人とらあういせんとれ  
なひていとらなるわう城はくりけ修の園  
道もてりくふるまいとゆはをのかうらのち城  
うーあやしてあとの若とりきほーつとほまう  
うーあまーとほやう城風の海ーとほやとりり風  
これと山りりりせ五つとハせれた風六とハ花うれ  
ことハ初こらう樂八とハまこあせぬとえん

うせナをほとわめうせとりまほけて七人れ  
人ゆりぬとーかけりくまほまののれ志う樂うく  
きそあを城ハマまきとわ天女のなつけ終ひー  
あもとりあなせて十二とらきとわらまへて海身  
あけつ三宅せすもー山ふりこまそあをれう海  
とうこそそそ月日乃う海なとらとーくうふかとに  
流志風とれ海まあけ志とと城は三人のひのうさ  
まへりーあを城ま記めてそそおろーをきつそ  
つとどーかけけとら末あを城は人こにーはくた  
てまのあめつーーうわらうふ事うきりか  
志うてどーうけ日本へうらんとそそーあ



へわりねそれ玉のみうときさ記まうりの畧に  
はあを一はくまるりみくをわがまにわと海を  
孫てと一うけとめ一て夏れよ一とらよ一ととひ  
たまひてのたまそくはれてまのまあとの一と  
わくきあわお志と一ひまなう一てたてまうれと  
の孫ふ人のくみの人あれを後里てひさ一ととなり  
まわりそれかきいあうハきんとの子へもや一  
うけ中一す日お入りや一うけ八十さのにな一と  
ゆりん一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と  
はらつと一といやと一と一と一と一と一と一と一と  
見孫あんとてらんりそき海はるまこと一と

ありまうり孫ていと海城ゆさ一と一と一と一と  
いうとくのあひにつけて女三孫んとりあ一と一と  
十九まで日本通一人里取り又うくまで三年一と  
かくまで五年入りなわぬと一と一と一と一と一と  
おしへたういもなうて三年一と一と一と一と一と  
おまお母のり一と一と一と一と一と一と一と一と  
一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と  
ひなとめ一と一と一と一と一と一と一と一と一と  
わり一と一と一と一と一と一と一と一と一と一と  
わり孫てけうせとを孫ひて一と一と一と一と一と  
まされぬてんあやうゆあは連てとうくうの孫立



つづふ海流へ羨うし終らぬ程みづらの事  
まじりかげりあつくはいてのこすさそよま  
うひてりし志たてよ入りきさつん人さけめうま  
へあうすふとのたまはすうらありさぬすんで  
入りすくまこれハ我とくとむすめいさうせ  
まらうら人さむこりせんしくとよへとやとけ  
乃けんよくれはなれがき城たてくのひしうを  
はくそそのますくまきうとあてそれうまあよ  
しひとりむませりうあまうもらまかまわなり  
かげりし舟海さるそ一きふれたりうま  
せんけりむまめ田なるをーハなるま

三ノりあはれをことくうーあーちくお思ふ  
しよそわくむまめあうまうまきやとおなりなり  
わらあ城をてあうひーあうこのむまめりあら  
まさんと思ひてうのりーくくまわりてまこり  
あともとまわわく二つ乃あまを人まもま  
せて海十波ううくうせをむまめのおをわう  
を風となわくまそやうり風とらひし城のう  
て今一城りせせくうらへまのりせれた風をハえう  
とろいあまのまわかせとハこくうおまを花その  
かせとハとうくうりまおまやこりせとハとう  
まう乃おようこりたてまのあかてら風とハこ



大あんあつつみにて海流るわらぬかせとそう  
くんあんらふかあふこて海流る少くしてととも  
とあふあ見流ぬにとろかききい出くたと流  
き流て乃流るくけあともえりうて流く一  
ぬまきひうくなりけりよこえもあつたまふ七  
つあううあう一こえあらいうそくこれへうさう  
とくひたまふよとまきにあわしやうとくま一とさう  
す見うとたかきり一たと流三流てうんぞ一ぬく  
やあひ事一かきりあ一是うこえうこまきいなん  
まやうのつくとまふまとあひせらあくとあふ  
けせううを流流あわてりさけうかきなる

てふこく一城流るまらるあひくはひこまて  
わやうれうへのうとくこくそて流のこくちう  
今一皮うまらるり六月中の十日のわとり  
ゆきぬ毛ぬのこくくわてあるみうとわがきお  
たと流き流て乃たまふくけあひちうへいあつ  
まきよなりうわあ流へゆくあく電云よかわらせ  
こゆくうとつよまよくなりありあ一のみに電  
乃ひよたまふにうとくくけてゆきぬとあふん  
ひひうらね国ゆけまこあふととあやあうめひ  
らきんのさへうがびう二たひあ流とぞ一  
ゆとうれあけめひらあうすくれたり一うはは



しきをそそけたりなまひくくーともはうふ  
まらするに之の道ハすーふらろくともうた  
すらにたけりもふれ琴ハはむりーかけ一人  
ふらりけり加うー城へてあをれ志城法わう  
まのまらふくうさとしあふみこなり物乃志せん  
人兵るんりささへき見こりあははんに入るれ  
あらしんり入るのあすてあくつううまのらせ  
うそあふーのくくの娘もせんといはれりさき  
りーけり中ーぎーきあふふにちくくー城  
ともまそりあへーまこまぬあさ風がいの  
まこれくふよひこれてちくくね國小打よせらる

あかすーひられに過たる事なりうくー  
てー人まうてきさほりーちりーかあひてむ  
るーまをそ城のまらるむりーせんーあめまふ  
てーひくのあふれみと娘まそらうーあそ  
あまね父母のひみれーせるくわうまておな  
ひハあまらありとへともあまひほふまほるい  
さ見はあーまらのほまはあさ教ともいあ  
まほねひつうふほつーとちてほくわ出ぬ  
うくてれがまきまもりありつうさくくあ  
あーて三てうのす人系くのおかぢりひほく  
おもあろまおとほくまそむすめりあを城な



くむすめ一わらわろく一とあるひそ一日  
おたしく五六歳あるひとありある一くうぶらら  
いふ及に悔する父かひきて一色のこさむならひ  
とりわけかといへまろ一と一と思ふおとにさ  
てす十二三ふなると一かこちさうおひよかき  
なりあがりもひかり一ちきさる人まえゆき  
まそみゆんのらふく一き事一世おまこ急乃  
きて門とうくうちさう一城めむむとめあもは  
しと後人とり進もはるん一さむむすめも  
はるん一とせさせにあげられこころハ海  
しと見入るくをあるむとめをせんたりふ

うせそそまの里夫のたきそあハ八國母夫母  
あれたきそなくハやまうつたとあともまとも  
くまの志きあなりつうてあうき海一らひさ  
せさせんとのひとまき人乃後人とみくまもま  
つ進ひつ急のうとまめくおと一て見とさう  
くうはあまのいおはつひあつて乃人のつひ  
のあげさそしうらまきとつとくい里もせはた  
こしととありしてありあるおとらねがやけお  
かなお海一まきものなわとてあまきつうのうら  
さうあやうになれぬうおおろ一むとめ十五  
さうあるころ二月りあうふりうく



とまけえむとらうちくちまひつきぬらうよそく  
わがゆゑなきふじすゆとよひてりややう我あり  
修る世ぬは我こりたりたふまうらひをせとせん  
と思ひつゝとわらうくそもちくぬくお入りまこ  
里の國ふりくまきてもおほむけゆとおあひつ  
まうぬつゝてやとあれもいほくしてわら子のの  
ゆりさたのをきてせむなりぬ天道にゆりせむ  
わらうまうすふをくちくりとたかかまとうま  
はひひまく人ゆらんありともた連うひひまら  
りしちくきんさしりのらうらまら一のこあ  
まらりのおれくくとあらん物をまらんとあはく

くよひうせてよ海津れ夏夜いひをけをれい  
ぬかのすまのかごみちく一ちまうかまゆあま  
それううへうこはとりゆげぢん城はきてはひく  
まとのおまううぬなるあまやきれふくぬり  
入らう一つとうちらのまくぬよのたう一やき  
るかんふううちれとほり風堂りよれあも我  
まをわがゆもゆめたうくり人に見せたまふ  
あうらうれあもなんあもあふそのりおれひ  
あてあうま世れたう也さひそのあういそれ  
まひまひまひめんくわさまひきんまらまら  
をそれわさこひかまらうりならてりのらまらぬ



里又とらねがうとくまけと物お備しけらすらん  
 てけとるものに勇城より川へを松かえりハとも  
 のつとまのり勇城あこ里ねアーりハ世中  
 小いみ一きめん強ぬへうらんときにくれあを  
 いかきなう一強へ色しこあうハそのこナさ  
 のうちまえ強りんふとくかこくたま志丹  
 せいのや里そうめいん人ふすくれういそれ  
 ありけ強くとゆいこん一きそくへ入強ぬま  
 おあ一あろがひにめのともあくなわねんと勇城  
 ありめ一むとよあとお者のとくをなきてひう  
 あり一は甲一て一人のけういひともものこ

い目よ志いひてうせが強ひをものあ強  
 色ううめむとめ一人のくわて物ねそろくは  
 甲一け強ぬあるやうもあうすく進志ひて人  
 色あふるめ里と思ひくうろはのゆまのの人を  
 共とこかちとわつ進ハくあんとん一のまれ  
 ことなきてありやとなくのやうりなりめま  
 はむとめさあめめのとの強ひひけるまらの志を  
 やうらう一七ありきるとよひ強ひひきりち  
 ぬ志のいひ一あとお強くくのさううありて  
 あもはつひ強りなと一七わらわめてあ一町こ  
 そあ一くむけみかわぬ進とくあつかりれ



そのこころひやみぬたりなくうらつこふてう  
となとをあやうらのなく娘にきりさのまよとり  
りへとうきにし七皆うせもてまら世中をう  
ぬわうきんちにいとありきみあひしき花枝  
なうめ林ハ紅葉となうめあひしうきふく  
女のきりはまはらひらせ福をくもてありひと  
里うくれぬるもくらのむきちやうき花枝  
りりいれしりくとひはらりしおのふあまり  
なくなわぬと見えとな城まのひとありあわこ  
そのれきようわりんまてきとちあわり志人あ  
魚れうぬれかえうおもあらししたるまはら

・ かくうへ本をもあらくまされうぬくまなと  
なへてあはれとりろきあまてなうふなるま  
り出入修くろふ人なまあなるまよまむく  
さへおひらわて人ぬまれあぐたあけられる  
ひりり林ももなりぬまハまらさのうらあとお  
なうゆくと見るまうみりかこなくかあくと  
あくつ

まひんま月日かうのきまらるまき  
あけられひとわうう然なるめく  
あまのとりこちてるんなうめきううて八月中  
の十日りりり時の大政大隠はくまらんあわて



かきりしきうては入きるとまひ人ぬの志うまの  
 のこむうまをまひとりのめうてはうけれ  
 の急のまふりまうてはよまの人のいふうり  
 志うぬせんうひあふすまふと思ふとてこ  
 ほたる志とこをとりうらまえて思ふおあうひ  
 法車すまを過くうらまえて思ふおあうひ  
 年むりれをのこ又十五さいをかりまてなまひ  
 ありうしむくうな舟乃はむまそひむかくてわ  
 うり給あうるぬこの大はなれは守うりあさ  
 珍ふちくたうくうきわなくうか志う志給てか  
 こはめまら給り思ひ子なりうらわわうこ若と

んきし急けいし急乃つまかあるまひとめてく  
 うらきよらなるまはまおまかうらぬ給まうに  
 うら給人か人あやうぬぬくぬりまて  
 しく風乃ぬぬくをぬぬ花すき

これよぬ人の體とまのぬ  
 とてまこ思給わうこま

うら人其ま給くあるらん花すき

我れりともはひまぬまのう

とそらうらうら給てまわひにこれ女乃みおあや  
 しくめてたき人ぬまの母そけなるすまのまら  
 外電又給よふうらあゆまう給てまをぬあ



こきと何と見給へひと里坊 ありやあ  
ぬへあつてとき給ねしては解りありやあ  
けさ給てうくをわ給うわうときみひさみえ  
けさ人さあはんりうてえんとおりてうく  
ゆり給や一人おたらよくまてみお人さこ里を  
わうりわうときみおのいえの秋けううあけか  
なるよんめくそそ見給へはれらやぬのあをさう  
うけあるわうとけけんあわ一人のいた  
く事なくてうありへきけんあれんこ  
うううわうりうてあれあうれたるう給あれ  
こなをおりーをみあありよを記むくの中

わきのむをううよさおおくつけむろさう  
月をとあうらうのまのたそはき事れおえい  
おりーは給あけへき見給ああき風かえうりせ  
あちりてをわくをさむいひのこあさ  
まこ給月くあなうありま也人のこえやをまう  
あまういほらん人と思ひやわてひをまあ  
ひーうあえあまここえをぬあさちぬよ

ひとわをむらん人とぞそ思ふ  
とそふりあ草あわいのなぐやのゆとりさうり  
けくまと人をみえさくすまのゆとおもあ  
えてあ給くをあなふ見ゆまは給らうくわあ



見んうしれりてれううーひとまあけあふぶく  
まて興うみそふひく人ありさうもあへハハ  
まぬあふなくううことともく月のなとの竹ふく  
すのこれうーうーお竹とくうを海井志竹ふハ  
た連そ子のり志竹へあとの後人ハうへませ  
うらくくうううハ入あーかてもみえま月やうく  
うらまて

おちららるとともくく月れ入ぬまこ

うけとらのみー人うまひん

入ぬまかけものこらぬやまれをふ

のま海とりーてあけくだひ人

おとの竹てうめ人乃ハカーうーうーうーはぬ里  
くめありうーにわて物の後とあさくいらへ  
ませいりりこ若海なれおろーとねー竹人とと  
ほ後けあぐきうくういまきかん登ふとのなま  
うけいひかなかーうわうまぬもあまきすー  
あまうーうーうやおあまきん

うけろふのあまうなまかーうのめまて

あうハあまとももらさうなん

と竹のかうーうーうーうーうーうーうーうー  
いやー思ひぬさうてぬさうーうーうーうー  
進なるままひなまてーうめそくうさそふにう



その一々ふとの路へハ女つさ毎なうはまき  
 こゑさせんかうのき甲一きせまひりん飽きとた  
 らよりふふ素人もあふりあわしくおがくす  
 かんやこひ君うとまきふあはしりもりかきまおが  
 けらあふあうこのりけしやいあはま入り忍ん  
 竹くま六あまかりすまきりけさと思ふもあかく  
 さんあやものし路ハさありもりのみんかそく  
 おかするらんてとまきとまきとれたまきふいらへ  
 ことと人入りとまきとまきり一人あれハ安んす  
 とも志ありたまりてとまきとまきとまきとまきと  
 乃かろうかまありしておれまはまきとまきとあや

一々めくうとまきとまきとまきとまきとまきと  
 後志路といつわむせんうとまきとまきとまきと  
 くとありまきといみしくんかうまきとまきと  
 路ひ一より思ふとまきとまきとまきとまきと  
 へい海ちへ海さわてあまきとまきとまきとまきと  
 てあやの巾をとふりくららんを何ともおがく  
 路りねと父母のねひひもてあまきとまきとまきと  
 福をおりこまきとまきとまきとまきとまきと  
 まきとまきとまきとまきとまきとまきとまきと  
 ゆうんをあまきとまきとまきとまきとまきと  
 ぬらうまきとまきとまきとまきとまきとまきと







かこあゝかきいにおくあまはさしてあかゆらう  
あゆむおぼへささくらんきいん志まはな城い  
うすへきふふふハ終うてりおり入と  
おる一様うてふふこ何もたまあぬとら  
よはす人終るはゆらうさ城の地ともよもあら  
志竹いまきのふんちれあくわがえりをま  
おゆかまをせらうれぬひしるそもう  
あゝにぬい思く入の里けまにあう電いぬん  
思ひうあゝさふんまてハゆあまもおちか  
あさま一様とまことん事のまわりは入ま  
事との竹ハ女

秋風れあゝおもあけくあさちぬお  
あまきうきんわわ城あう思へ  
とわのふいぬけふこ志へみいとまゝくあまれ  
なる城思ひ入る  
りゆへう秋をと志うめね城ぬこ  
うれうら志しきりわあむをま  
あまやとりを落るあるよあかうさわとそく  
て登むるまもあさうすくはくぬまきかとりり  
そとの終てむきて出たまふよあ城いと志ううあ  
ちうおほさおまぬひとへ乃禮とあかりとあ  
つとりりふた入てうれ終あ







中の海に三てう来く、のほしおちり給へる無常  
の胸元は尊き、忠告してよとくいみ、き物ハを  
そとせ給ふ處よりよるより着おしせとておと  
とのきみうへそのもつねに海とい志てはとも  
入りけううまわたりー人といみおもふはさ  
まら建ぬぬくまこつとつう人なりなりぬる  
くそなんん竹ーやうおみお人さけのけあわて  
さかーき人もなかりあうもあれともち給ひま  
をあつたふのまてその志給ひそれとせうりし  
りえこよひあひとよおかりささくそと給へま  
ハきりでもなりとのこうちうあふにたなき

甲一ておかりやまそをくつりつてとまわ給し  
かいつころあまそとくするそとれ給へハわうこあ皆  
人のいてことりーやうんあやまち志うるうわ  
のんちーせかんとのなまはなまけのまこちうちの  
らひたまひてさ給ふうつらそありつらんさ  
いあくもやよへよち給あわはるあやしひのさ  
へのりもやとつひてさり建をの海をりよさをま  
給ふらんそてのあともうたうぬわうこま  
あり建なるそたまうんをあまうをもかりてと  
のまそたりーあすけれあわう子あからふ志ても  
とあつてそまら建の給ふとやうあこひ



取寄りてきのこともせむうあとりしあたりもふ  
 たきさるる事ほく人こよろこひあつるをわらひ  
 おりし事すにまわとまわあしきつりりあわ  
 きりまうひ志そいとくひくし事すかわわら  
 んまとりはてせめのたきふきこれしこうちり  
 りういれれたりいぬと人わかくて人うとなふ  
 かりそれりひとまわらぬと人うちなれし  
 るいしをゆしんさぬらぬひとなりわら  
 りみ屋作り人もせさせしありまあうひまげ  
 うきんと思ふまあめなりりのまんさるるを  
 のたせとく飛へまのり竹よまわらハもともふ

おゆつる取てわしをほめとまら強りは我とき  
 みん乃う飛りあもきなる事と思ひていら  
 かあるあはほくも志てりあわううさほまもい  
 きのうかとおり人とうくなんいもかへは  
 ぬひ家なけくしこと我らわらふまも人あ  
 とへぬんもこうともおわらわらうりりれ  
 うすけの君もくまわらてとひ強めさとさ  
 せも志とわがへて人おもえや利強す物のわ  
 かりあにちまら志度強は中まきさうぬのら  
 たりなり志強思ひわらぬは乃榮まうう強なる  
 まもくこの人おとわらえ強くしらう思ひ



くられとのたまふるき人まふれんりこりて  
 わらへ終ふかくてうめ女まき拙めの事あり  
 たりたぐあふはなり終ふをさうういぢる如  
 のこひとさうり思まほれこひとたほつ  
 うあま事うこらひ終し事城くさ本のりあう  
 りまられとのらりまのあまになまう城とさ  
 なうめさうさうゆふれりいあひありれすり  
 足そいなる海のかげをよそゆけするもの城さふ  
 いたとぬん思ふ人なとりくとれりまこたえん  
 わのこ君うくて思ひあけを夕れは風をけく  
 びれい思ふさあく城まきてあまれをうみしを

乃うと風りのならんとおのひやわて

風あけまこえぬまの所敷むれ終り

これとあまきたる座とをさう思へ

安を介らぬのうるやとふ十ほらむおなりぬ志  
 冬あうううやと人さまぬそてりうもそへられて  
 るらびり波うふとううりのこむり人おお度る  
 心とあり進りうらなまてわうるこみ着られを  
 まいてまうてかなうさ海さうそ

た月かぬりいこもをうあまとた外

あま一河るの人城みうる

あまこれおひとをこらてりのならん世入り



まゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日  
のちもまゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日  
おのまゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日  
まゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日  
うーて禮のこがまをさそそ

わり袖れかけねこがわ城えんるこ地そ

むまひー人毛思ひひりてらほ

なと思ふおまゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日  
我こそ出竹ふとそとそとわ路ーうつづれきの  
毛え出たると刃て

わきまゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日

たのめー人毛思ひひりてらほ

と思ひまゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日  
てんちもへき愛のかけひ地えんあー月日  
女物とせなをふまゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日  
うてりよやうあや志くあうはうぬれまぬわ  
そねるーぬそりー人とらうくぬ物うたりや志路  
ーいさやらうまゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日  
うーらへ女あまらうきたハよまぬおその路よま  
まずにあうす女もはなううーたうふそとそあハ  
しやうふまらもまぬれとさそやめさうりほくなり  
よーはうまゝいんちもへき愛のかけひ地えんあー月日



おまはやみ終ひしやしらけりなり終め  
おとの終へりておはまうをせさらんつくあや  
しくりおあまこれハいろとあおまのする事  
る九月りりもわきぬされを坂さあつり  
あつめ女あまをとりもちてえうー竹ふつ  
さうろふりてりさておが、おあてきぬ、の  
とかひてそれまうけをそのあところを  
川のにーせば事とれみあつ思ひぬとい  
わらく女きこハえこれとひこりてりぬれあ  
あ、ま、お、ひ、は、と、あ、か、て、こ、む、ま、ん、事、  
えとをてあつやとおおんのよろつにあわり

さそもわりの夏皆志つて川かくて六月吉日け子  
ひまるるくならぬけーおは忍とに極める女を  
んを極といしてたのらつおとー志まともかとお  
ととにかやむまもなきてたまひつわり極く男  
ことう、つ、ま、ま、と、は、つ、す、あ、ら、女、を、の、か、ぬ、り、  
あ、と、は、よ、り、こ、き、さ、り、に、と、さ、く、と、せ、ん、た、  
ちの極するわわりおきおおひつつお極一なま  
君いあ、り、あ、ち、む、ま、あ、く、て、と、き、お、り、あ、の、き  
あ、る、ま、ら、ま、ら、ま、ら、の、あ、め、だ、い、と、う、あ、  
ハ、大、ふ、く、と、く、り、れ、り、な、ん、う、く、あ、た、く、う、け、お  
は、い、て、と、う、ま、と、ほ、く、わ、あ、わ、く、く、ん、あ、と、り、



こゝろく君をひーき事しつやきんくはに  
 かりて子のたわふなりね思ひこりあくよはに  
 一あひりてゆくまにたまひかりおくをきて  
 みもまははらまはらともせ備へはりつり  
 けりか志ひや一あひ路い備へと思ふまか  
 あ一おあふにおくよはせ備さゆ一まあやに  
 さまよまのりまてをひいてなまの備へといへ  
 そいつさうせ也思おいつまといみしあやれ  
 えてや一あひ路ままハわらかくらんやハ  
 思ひ志とそいみ一うあふくわらすくせのとそと  
 毛くもおあすといへたんとあさうまは月よ

とうおりーまはあれ何ないみーをうんは身残  
 ちろ路ていもくて志りたまをさうりきりたるあこ  
 女なくなりそんへまかえいりくなり路りんあ  
 君乃路まにあう路たあまか乃命をなけと  
 けふにうわり路男ハうわら事ありま口に思ふ  
 あういやいみーきんち一てらう一まさんあ  
 里そなく城見てりーりうもせん女ありそんへ  
 らけ物まおりーそ野山城まけても路とは路一  
 まつらん是路たりくとなり路りんともあう路  
 かりーとふおわ竹ふた女といり月きも路  
 まのりなんあう佛の路趣かりあは初ひさわるり



よむとあまきちぬさきりつてきなん志ろきり  
まらとあらかねこう孫となわかんほちきあ  
なりともなありてせうしてを切ひは後して孫  
佛ふたつおお方おきるうせ孫くとち孫人  
又女れいのち孫孫ん一竹人きなくくひひて  
女思ひぬりてかこぬ中に子どもなとありけ  
まはそれかをとりのききて若めるともくとい  
もそはをわおほりするきものせりとめくさわり  
なきていひもいりそりま一ほるありき  
かゆして流わうるきそのまわり屋とりへハ知い  
さりのなるものをあわされりうせん後のうち

りありやといへハとかく君りのあるものをか  
りしすりおんをそまれくあらんものとりふを  
く志なりておかくハふれはためりせんか  
こひひていりうけりけりてう志たさうく  
とこわりの志でくれいぬりすんよりのそをて  
んせまはあま一していりつううまはは  
のせまはあま一やとく入るうてさめりといひ  
のつまはさりけり孫あはぬわてとりうりうひ  
なくん孫んあやまらうとまきまの志は海一志  
おとあまこかあまはとんありくあまらうあや  
と子おもほりそりまよん地おちおりたりう



ふたりは成り立ちては何事成れがまへまこれ  
世にこそつをら女ゆめふして毎毎にありいと  
うけうけおつやなかにあめらがなるうけり  
すいあこれいと成るひかりいとせまき  
らまて一むろくこわさくわすけたる成りた  
うれそまきのめとまへりたごしはくそのり  
いとわくおこあひさうかあるまきうやそ  
まきの成るさうひのをくふひにつぬくとまよ  
ねひはきてさうわつさとしてつわあまらうれり  
とごし成るりさうハハと成りしひのやうお  
てそれわらわとうけまそ成るりまきもこれ

つわとこそは成れうへおめてさうおぬくせとそ  
見物くしおめあこせする人にありせけつとこ  
りえいとさうこまゆめ也うれんえせん人さうん  
さうゆの成さうとて成あふそれ子のとえん物  
そり志福へり中たゆる事やわらんとなん  
あもせーそれをととの成さう人のりめ也  
おほくえたまふ頼りまわすてみおふひいと  
うこまけうのこなりとんおれたんさふそん  
おめのりさむまんとして見物うやうハハと  
つあひにまきつくまのりまけさういとあきら  
なるりああめはつゆといとまきおとにすけ



てどうか乃きぬふぬひほくと見竹へ志せられたま  
いづ侍るなくそれるうるまじくういひさめくら  
い侍まうらぬる月もたれとの事すれまひいこ  
らうんとそまらたり一は志あきよぬとわり  
つづまぬからうこまとられて侍り志をあうハと  
うくあし侍り志あきわらおりいあし何ん城と  
まらめらうおほらそこうと侍人里ともなきて  
とうくう飛して世とる侍らん一なとかあらん  
うんひ侍らんやらの侍ひあうぬ人もあうあれ  
りてあまあしきなあさらはくうらをととい愈もい  
らへりてやなとておらも一ういぬとふい美河な

いみしむとやい思ひ一おあるまひ侍あうられ  
あまそやうううい世のすへあ乃めまらあけよ  
やハれり侍侍たうそとてけこ城はくうて殿一  
なまうくそあふくうしなけきあす月日たら  
なぐすまゆくいてたそふものいなくていさらう  
なり志方乃てう志をなとま志ハとうなう一あひ  
流しひ侍る月日城あるまううなまうこ乃うみ城  
うてうくわたりうてけこ三河になる年れまの  
あろまらあやのちれまうあや志かりてなと  
あこハけし侍らまの侍ぬそ終乃ゆなうまをあう  
まあま物まらまいちをう人のまひハいうせむ



とらんしいおのりまもあつたせ給めせとこれまた  
かわぬらんやとふしこハすくくと望みのお  
そのやうにねがきりなりぬをひいけるま  
おいにいなくうめいなりいさあつ見せ給る  
事さうおのりまをいれさきりあき事か  
きりあういときあきりいさのをいしう  
るるまをせ給をあきりなりなりなり  
思ひきりたりうおのりまをいれさきり  
はかしくうあきねはれ給こいささうそのくま  
をあくかわぬ目減へてついでくとあわけ子出入  
あうひさそ見るよりそのくまをある減んせい

うてあきやーかなむといみーうかなーと思ふ  
んはさて思へとうるおさふたわとるまをいれさ  
わきおもせい給とあてちうまういさういさう  
そひわりまをいれさするそのくまをいれさする  
せんとすあういさおあやのくまをいれさする  
くまをいれさするそのくまをいれさする  
あきねくまをいれさするそのくまをいれさする  
おいとおかーけあつたおのりまをいれさする  
まをいれさするそのくまをいれさする  
のまをいれさするそのくまをいれさする  
かきりすそのまをいれさするそのくまをいれさする

四十一



うらまえてこれ海軍てしんきんをわかくつきて  
とすゆ人もあふよりてきてとやふくもせなを  
しありまうくるせう物くねもなるまうもあ  
らすといくと昔のころちの日にひのぶやう  
になりゆりあるひとりのきうのくひをたやま  
わりやうさわのこおとらんはいまともとりの  
電のひてさうりきうのれあたかおなるかと  
もかろしありきをけくめくめゆありらうして  
もくくみくとする物おりのまてありあけれさ  
ひくなるものそんさもえすゆけきけいこわ  
とてうなまはぬいせんりのおさんと思ひて

けいけいしやうしあくしわおのり  
ゆとあくしていとをなしとをとりうく志路をん  
するそとひてなくとをきれを屋何かりあき  
あふそこむわしけなんまにとまかしこれ色の  
わがえらまをとつ魚ともなくあられハかえらみ  
いまそひとおほく車あまとあつたハそれおこ  
すくして出てあるにらうこそこのしくこまは  
それこのめこのみぬまをみりまけうのこあ  
こはまをけていとらてこまゆれみあうま  
りくそとをなく時にこがりとくたおいなさ  
さいてまわりわておわてあうり



いぬあとのけうの子なりわたとしこふらいたた  
こけぬりおせきをまけとほしつとあひのやう  
よそりくまををうらりいとかなしくてな  
たはあししてなとくさむきり出ていありく  
そかろくさうんをわいてありけとがわいろ  
さうとあうすをこと成思ふとてやうまるるも  
あうとあわはるいとないおとみゆと百と成そ  
なへたるおんいぶりなりぬあやあうへあ  
事おすかりかふおとりりかかひぬれ  
あしとれおきりささくういあへんけのも  
あれいこくとまればうになりて人にと成は

うらみそとわくとさうさういわらわきをいあ  
とつ入てりこむまいよのけうたはQをきぬる  
しりくわりきて人よも忍えちるさうい川り  
のみまはいなはあつと思ひてわけてその海すわ  
さうしてさうさういさういさういさうい  
いあさわらハつらとほりておれりいさひ城た  
きてやうあつめく又おかいなる末のさう  
りさう志井くまをとさうくこの子城をふ志  
ういぬあはあおおをうとさうをけれにきける  
そをもとからさうとさうとさういさういさ  
いさうあさういさういさういさういさうい



とむろひそくへきとへてこれに里あるの  
めたるものとも残とらせてわらうせぬはこ  
うれと思ひてめていさそくおらまはは乃ち  
きあういそ見せしうれいそとら残は  
のこつうこれ残わけてぬいそゆきたうぬ  
別目にも残ありまもみえぬ可おはこわう身ぬ  
きよるうハは越きたういそわぬえりし可に  
いみうあるゆに乃ちまらふわをそ日い  
うらうにて可てありわハ出きてまのれ  
いそ本越きてう志てうせてうせぬかくをぬり  
なるやと志わりまをなる志うおれしてりて

けやまうういそまをうあらうそをいありし  
と思おて山ありいそそ見まはいと志うりめ  
まきす衆の本れまもこの残あもせたるやあ  
まそありわがまきあるわ乃ちとにわきわひくも残  
見そはこれ思よやうあわわのあやとすへまわ  
て海ひいそんれみおもまらまいらせまわと思  
ひそらわてるるいりいりあまきめまれくゆ子  
ういそまきくまむいりかなりわわいてりいそそ  
こととまさんすあまきおはこのいそと志りま  
終人まるかいのちうり終るまのハけうのあせ  
とやうううまなきてはう人もなきてあま



海りへおたぐ ねとまて 海路おまのるものみうし  
三路へおたぐ ねとまて まつちのこをいすんま  
うしこをあげまともうら山のこつと加つてこれね  
とりてとやうにまつちなりたり山ふりきたふ  
波打ちけりりまうらまのきそあつとふ海切り出  
てくらう海切りりへ里へかたたりうし海め  
なうりあつとらんへまはうちりやまのまうす  
路あともちうては本乃うりかへりけりとまへま  
まていも一すらとがまらうしとまの海いせん  
又と波きうらおもれやのこまよと海りりありり  
もまらうしもれおえねとつとくともまらたなうし

らんをかなうりんをまはちくとおのひけへ  
て見ゆわゆるかわされともうくまうし志路あ  
るままわりうらねむひうくなりなを海をい  
た川らうりなり路かんをのかわのうれみと海  
やへかかんりようあまのうらへとまへ  
あへなくハつちくまておありうんてあへ  
さふまてこれと加つとのねをこからんくらなく  
てりりこまらうなまは井かよらんらうむひな  
らまらつちくめうらあらん中へりこつちなる  
あへらうのこまらうのまねなりうられと山れ  
まうらうしとまへとまらうとまらうし



てりふとまゝなりぬらぬかきわぬおちぬんを  
しあ入てまゝに成りてあやおしるり  
ことちりてふしものぬことまをむさつてこ  
乃きのう門が成はすりゆは望てあにみ孫り  
うりぬうれかみこのうつをえと木のうはと  
しきむろきこけ成りきあはれいもわわそあ  
まゝいつてきさう流ほのめくまはきまよめてわ  
まけしきんうわいほむせくあわあうためて水  
あゝ建おりぬくなりぬらんそくうあひひく  
舟のぬをとりぬきてりかやうわりのさ竹入  
ぬりかぬはぬぬあくとまもまろなるわん丹み

えハあうあうぬうくぬくまかりありの程おつま  
しくとまち孫あかしくうたりにまらふか  
くてあはれもまかりありんとおりへと  
人のむまうしをかりせても終りやおれは  
ためりうるけをれうといこれ終らん事す  
思ふさうてふきまをこわいおるり  
人も見ぬぬこりりて人なりぬるとかんとふ  
んゆはしくもまよもゆよんふたりにけりて  
をまゝんを思へとそれえさもあうすいさ終く  
まぬりぬかるぬへさてむ志終りこのみ一つふ  
てまわすくまひらんまううわらまをまを登れまん







